

## 企業は人なり

波南（茨城県土浦市、佐々松音社長、029・822・4587）は、物流用梱包会社。顧客の要望に応じて木や鉄、強化段ボールなどを加工して、大型建設機械部品から精密部品まで各種製品の梱包を請け負っている。製品に合わせて梱包加工する際に用いる端材は、1週間もするとコンテナいっぱいになる。それが悩みのタネだった。鉄や段

### 波 南

ボールは業者が買い取ってくれるが、木材は処分料金がかかる。有効活用をするために、木の端材を小学校の工作用に寄付したりもしていた。

「たまる一方の端材や廃材を活用できないか」。日立建機の出身で原価低減

# 廃材活用「考える力」育成



活動に従事してきた佐々社長は、3年前に波南の社長

就任した時から気になっていた。そこで思いついたのが、端材や廃材

を利用した製品を開発する「アイデアコンテスト」

……

木材は処分料金がかかるため、なにか有効活用はできないかとアイデアコンテストを開催。優秀賞は多目的置き台が受賞した

### コンテストで現場力底上げ

ト」だ。波南の従業員のほとんどが参加した。116人が17チームに分かれて取り組み、全部で80点ものアイデア製品がコンテストに出された。優秀賞を取ったのは木製の多目的置き台で、企業を訪問した際にインフルエンザ予防の消毒液が、殺風景な机の上に置いてあるのに違和感を覚えて製作した。すでに60台を販売している。

今回のアイデアコンテストについて、「商売に結びつくようなアイデア製品は正直言ってなかなかないと思っている」という。コンテストの大きな目的は、「従業員が考える癖をつけること」（佐々社長）と狙いを語る。今回の不景気で

仕事量は大幅に減少し、従業員も減らさなければいけない。仕事が減って時間をもてあます従業員も少なくなってきた。従業員が考えるべきだ。従業員が考える力をつけることで現場力を引き上げたいというのがコンテストの本当の目的だ。また、現場力引き上げるために、マイスター制度の導入も検討中。「一定の年齢を超えると給料はカット

される。せっかく培った能力を生かすには、別の制度が必要だ」という。「当然若手の育成もマイスターにはお願いすることになる」と、人づくり改革に余念はない。

（火曜日に掲載）